

## 国庫補助事業

令和4年度

地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業(地域のスポーツ環境基盤強化)  
総合型クラブの質的充実に向けた活動基盤強化事業

# 事業報告書



# 目次

1	事業の概要	1
2	定期運動(定期クラブ活動+A C P)での効果検証	3
3	総括	16
4	参考(本県総合型クラブ情報)	18

# 1

## 事業の概要

### (1) 趣旨・目的

熊本県内の総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）の質的充実に向けた取り組みの一環として、総合型クラブの会員を対象にスポーツ測定及び運動プログラムを情報提供し、定期活動に導入していただくことによって、定期運動での効果検証及び定期活動の有用性を立証する。

さらに、各総合型クラブの指導者や保護者等に検証結果をフィードバックすることにより、指導者の意識向上とプログラムの質的充実につなげる。

### (2) 主催

公益財団法人 熊本県スポーツ協会

### (3) 協力

学校法人 银杏学園 熊本保健科学大学 健康・スポーツ教育研究センター

### (4) 実施総合型クラブ

【県北：和水町】クラブなごみ

【県央：熊本市】長嶺地域スポーツクラブ

【県南：上天草市】NPO 法人上天草スポーツクラブドリームズ

### (5) 対象者

上記3か所の総合型クラブ会員で小学1年生～6年生までの男女  
各会場で約20～30名の参加予定（見込）

### (6) 実施期間

令和4年9月28日（水）～令和5年2月1日（水）

### (7) 実施の流れ

- ①熊本県内3か所（県北・県央・県南）にて、本事業についての事前説明を行い、現地スタッフ・指導者・保護者等に協力依頼し、同意を得て実施。
- ②同意が得られた3か所（県北・県央・県南）の総合クラブにて、9月～10月に第1回目のスポーツ測定会を実施する同日に、運動能力向上のためのアクティブ・チャイルドプログラム（以下、ACP）を紹介し実施する。
- ③1回目のスポーツ測定会后、各クラブにて約2か月程度、各クラブの定期活動の中でACPも導入し実践する。
- ④12月中に2回目のスポーツ測定会を実施。測定結果をもとに、効果検証を行う。
- ⑤1月～2月上旬までに、各総合型クラブの関係者・保護者等へ検証結果をフィードバックする。

(8) 実施日程及び会場 (表1)

	スポーツ測定会 (1回目：実施前)	スポーツ測定会 (2回目：実施後)	結果フィードバック
【県北：和水町】 クラブなごみ	令和4年9月28日(水) 18:30～21:00 於：和水町スカイドーム 2000	令和4年12月7日(水) 18:30～21:00 於：三加和公民館	令和5年1月16日(月) 19:30～20:00 於：三加和公民館
【県央：熊本市】 長嶺地域スポーツ クラブ	令和4年10月2日(日) 9:00～12:00 於：熊本市立託麻南小学校 体育館	令和4年12月11日(日) 9:00～12:00 於：熊本市立託麻南小学校 体育館	令和5年1月28日(土) 19:00～19:30 於：熊本市立長嶺中学校 体育館
【県南：上天草市】 NPO法人上天草 スポーツクラブ ドリームズ	令和4年10月26日(水) 18:00～21:00 於：上天草市大矢野総合 体育館	令和4年12月10日(土) 9:00～12:00 於：上天草市大矢野総合 体育館	令和5年2月1日(水) 19:30～20:00 於：上天草市大矢野総合 体育館

アクティブ・チャイルド・プログラム (ACP) とは

子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かせる。それがアクティブ・チャイルド・プログラム (ACP) である。

子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして、公益財団法人日本スポーツ協会がアクティブ・チャイルド・プログラムを開発し、主に次の4つのテーマについて、実際の指導現場への普及を図っている。

- ★子どもの体力・身体活動の現状や、からだを動かすことの重要性
- ★多様な動きを身につけることの重要性や動きの質の捉え方
- ★遊びプログラムの具体例として、運動遊びや伝承遊び
- ★身体活動の習慣化を促すアプローチとして、ポイントや実践例



<日本スポーツ協会 ACP 紹介ページ>

アクティブ・チャイルド・プログラム (ACP) 活用の経緯

子どもの体力の現状は、スポーツ庁の体力・運動能力調査によると、新体力テストが始まった1988年から現在まで、小中学生の新体力テストの体力合計得点は男女ともに増加傾向であるが、「走る：50m」「跳ぶ：立ち幅跳び」「投げる：ボール投げ」のようなスポーツ活動の基礎となるテスト項目の成績は、1985年頃から2000年頃までの間に大きく急激に低下している。

このような現状の背景の一つとして、一般的には「からだを動かすこと(身体活動)」の重要性を軽視する風潮や、からだ全体を使った動きやスポーツに関わる時間、仲間、空間(場所)を確保することが難しくなっていること等、子どもを取り巻く社会的・物理的な環境変化の影響が大きいと考えられている。

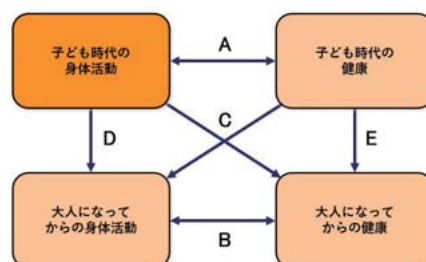
子どもの身体活動量の低下や運動ばなれ、運動に対する興味・関心の低下、苦手意識は、既に幼児期から起こっているといわれており、幼少期の運動習慣は大人になっても影響するという結果が出ている。

なお、スポーツ庁が実施している「体力・運動能力調査」では、成人のスポーツ習慣と、小学生時に運動を楽しんでいたことには強い相関が認められているとの結果が出ており、さらに、小学生時に運動を楽しんだ子どもは、未就学時の外遊び回数が多いことが指摘されている。

一方、総合型クラブは、地域住民のスポーツ実施率の増加、生涯スポーツの推進を行う地域団体であるが、生涯スポーツの推進を図るためには、子どもの頃の運動習慣や運動に対するイメージが後に大人になってからの身体活動に影響を及ぼすため、非常に重要といえる。

総合型クラブは、定期的なスポーツ活動を実施し、身体活動の場となっているため、今回は子どもの身体活動に着目し、総合型クラブの指導者及び会員である子どもに対して、日常の定期活動の中でアクティブ・チャイルド・プログラムを活用することによる効果検証を行うこととなった。

身体活動と健康の関係およびその持ち越し効果



※アクティブ・チャイルド・プログラムガイドブック参照

Blair et al. (1989) 一部改変

## 2

# 定期運動(定期クラブ活動+ACP)での効果検証

### (1) 参加者・効果検証の対象者 (表2)

◆【県北：和水町】クラブなごみ：

小学2～6年生までの15名(男子9名、女子6名)が参加

→定期活動および2回の測定に欠席がなかった参加者：12名(男子7名、女子5名)

◆【県北県央：熊本市】長嶺地域スポーツクラブ：

小学1～6年生までの29名(男子23名、女子6名)が参加

→定期活動および2回の測定に欠席がなかった参加者：19名(男子15名、女子4名)

◆【県南：上天草市】NPO法人上天草スポーツクラブドリームズ：

小学1～6年生までの36名(男子28名、女子8名)参加

→定期活動および2回の測定に欠席がなかった参加者：17名(男子10名、女子7名)

★参加者総数：小学1年生～6年生までの80名(男子60名、女子20名)

→今回の効果検証における分析対象者数：48名(男子32名、女子16名)

◆対象者48名(男子32名、女子16名)の内訳(表2)

	【県北：和水町】 クラブなごみ		【県央：熊本市】 長嶺地域スポーツクラブ		【県南：上天草市】 NPO法人上天草 スポーツクラブドリームズ		合計 (名)
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
6年生	6	1	6	0	0	0	13
5年生	0	0	8	2	5	1	16
4年生	0	1	1	2	2	5	11
3年生	1	2	0	0	0	0	3
2年生	0	1	0	0	2	0	3
1年生	0	0	0	0	1	1	2
合計(名)	7	5	15	4	10	7	48

### (2) 方法

熊本県内3か所(県北・県央・県南)にて、本事業についての事前説明を行い、現地スタッフ・指導者・保護者等に協力依頼し、同意を得て実施。その後、同意が得られた3か所(県北・県央・県南)の総合クラブにて、上記の表1の通り第1回目のスポーツ測定会を実施。また同日に、運動能力向上のためのACPもACP指導者のもと紹介し実施。1回目のスポーツ測定会后、各クラブにて約2か月程度、各クラブの定期活動の中でACPも導入し実践してもらった。

そして、上記の表1の通り12月中に2回目のスポーツ測定会を実施。

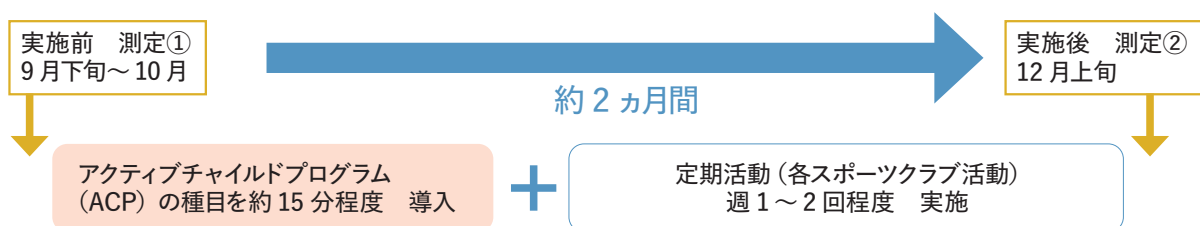


図1

### (3) 測定項目

今回、測定項目を独自で選定するため、以下の選定条件を考慮・検討して厳選した。(表3)

- ① 測定に費やす時間が定期活動の時間内(約90分以内)に全てできる測定項目数とする。
- ② 専門家でなくても各クラブの関係者・保護者が、測定方法マニュアルを一読し、簡単なレクチャーを受ければ初心者でも正確に測定できるもの。
- ③ 測定するのに特殊な道具や高額な機器などを用いないで測定できるもの。
- ④ 小学校等で実施している新体力テスト(スポーツテスト)の測定項目と重複しないもの。
- ⑤ 先行研究より幼児・児童期に急速な発達が見込まれるといわれている神経系と心理的側面の要素を含むもの。

#### ◆測定項目 (表3)

	測定項目	目的・要素
①	10 m走	【スプリント力】 走る能力、ダッシュ力
②	Tテスト	【敏しょう性】 多方向へのスピードと方向転換の能力
③	メディシンボール回旋投げ (左回旋・右回旋)	【体幹のひねる力・投げる力】 体幹を回旋(ひねる)動作中に発揮する筋力・能力 上半身と下半身のパワーの出力・連動性
④	Yバランステスト (右脚立位・左脚立位)	【バランス力】 動的バランス能力 下肢の安定性・筋力・柔軟性・固有感覚
⑤	落下棒反応テスト	【反応力・敏しょう性】 視覚的に認知してから手の筋肉が反応する能力
⑥	セルフ・エフィカシー (自己効力感)	【自己効力感・自信】 チャレンジ精神、安心感、有能感などの心理

### (4) アクティブ・チャイルド・プログラムの導入実績

3クラブそれぞれの定期活動の中で、測定時にACP講師が紹介した遊びを可能な範囲で導入いただくよう依頼し、下記のとおり導入いただいた。

#### ① クラブなごみ

定期プログラム：総合スポーツ 週1日  
期間：10月5日～11月30日  
内容：ムカデドッジボール、鬼ごっこ 等(15分程度)

#### ② 長嶺地域スポーツクラブ

定期プログラム：バスケットボール・ハンドボール・剣道 週2日程度  
期間：10月3日～12月10日  
内容：言うこと一緒・やること一緒、ねこと鼠、転がしドッジボール、鬼あそび、尻相撲 等(10～15分程度)

#### ③ NPO法人上天草スポーツクラブドリームズ

定期プログラム：陸上・野球 週2日程度  
期間：10月27日～12月8日  
内容：中あてドッジボール、しっぽ取り、ねことねずみ、宅配便ゲーム 等(5～15分)

公益財団法人熊本県スポーツ協会 総合型地域スポーツクラブの質的充実に向けた事業

ID:

## スポーツ測定会 記録用紙



### 個人データ

名前: \_\_\_\_\_ 性別: 男・女 \_\_\_\_\_ 年齢: \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 学年: 小学( )年・中学( )年 \_\_\_\_\_

身長: \_\_\_\_\_ cm \_\_\_\_\_ 体重: \_\_\_\_\_ kg \_\_\_\_\_ 今しているスポーツ: \_\_\_\_\_

利き手(おはしをもつ手): 右手・左手 \_\_\_\_\_ 利き足(ボールをける足): 右足・左足 \_\_\_\_\_

### 測定データ

要素	測定項目	第1回:測定日 (R4. 月 日)		備考	第2回:測定日 (R4. 月 日)		備考	
①	スプリントカ	10m走		秒		秒		
②	敏しょう性	Tテスト		秒		秒		
③	投げる力 ひねる力	メディシンボール 左回旋投げ 【左足前】	1回目	m cm		1回目	m cm	
			2回目	m cm		2回目	m cm	
			★最高値	m cm		★最高値	m cm	
		メディシンボール 右回旋投げ 【右足前】	1回目	m cm		1回目	m cm	
			2回目	m cm		2回目	m cm	
			★最高値	m cm		★最高値	m cm	
④	バランス	下肢長 (腰骨前方突出部の下端～ 内くるぶしの下端まで)	右足	cm		右足	cm	
			左足	cm		左足	cm	
		Yバランステスト 右足立ち (右足の前方・ 後ろ内方・後ろ外方)	前方	cm		前方	cm	
			後ろ内方	cm		後ろ内方	cm	
			後ろ外方	cm		後ろ外方	cm	
		Yバランステスト 左足立ち (左足の前方・ 後ろ内方・後ろ外方)	前方	cm		前方	cm	
			後ろ内方	cm		後ろ内方	cm	
			後ろ外方	cm		後ろ外方	cm	
		⑤	反応力 敏しょう性	落下棒反応テスト	1回目	cm		1回目
2回目	cm				2回目	cm		
3回目	cm				3回目	cm		
★平均値	cm				★平均値	cm		
⑥	気持ち 有能感	チャレンジ精神	標準化 得点	点		標準化 得点	点	
		エフカシー(自信)	標準化 得点	点		標準化 得点	点	



(4) 実施状況 (図2～5)

【スポーツ測定における現地スタッフ・保護者の強力サポート】



図2：各クラブ関係者・保護者のサポート（準備運動、測定方法のレクチャー、計測、誘導など）

ACP : アクティブ チャイルド プログラム 実施風景 【県北 : 和水町】 クラブなごみ



図 3 : 活動風景

ACP：アクティブ チャイルド プログラム 実施風景 【県央：熊本市】長嶺地域スポーツクラブ



図 4：活動風景

## 2.定期運動(定期クラブ活動+A C P)での効果検証

ACP：アクティブ チャイルド プログラム 実施風景

【県南：上天草市】NPO 法人上天草スポーツクラブドリームズ



図5：活動風景

(5) 結果

総合型クラブにおいて、小学校1年生～6年生までの児童を対象に、定期運動（定期クラブ活動+ACP）を週2～3回の頻度で実施した。その活動実施の前後を比較分析した。その結果、身体的側面（スプリント力、敏しょう性、バランス力、反応力）と心理的側面（自己効力感・チャレンジ精神・自信）に有意な差がみられ、実施前後で心身機能は向上していた。（図6～9）

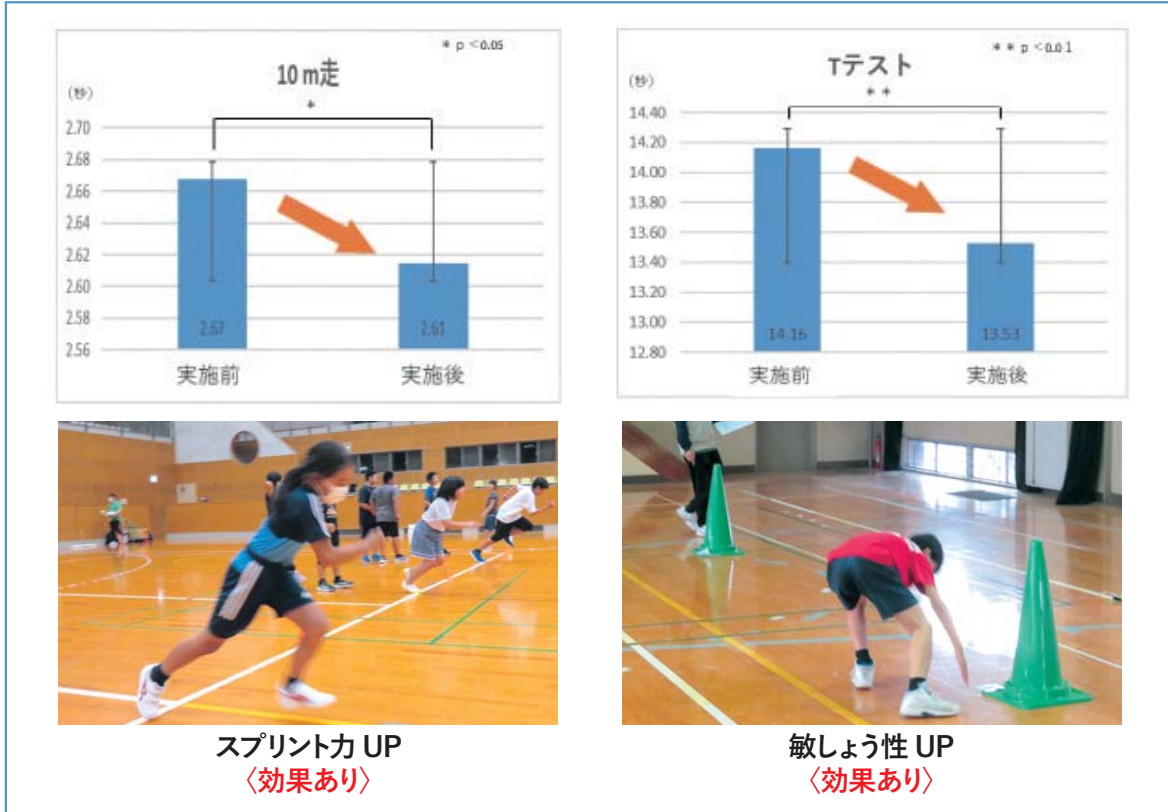


図6：10 m 走・Tテスト



図7：メディシンボール回旋投げ（左回旋・右回旋）

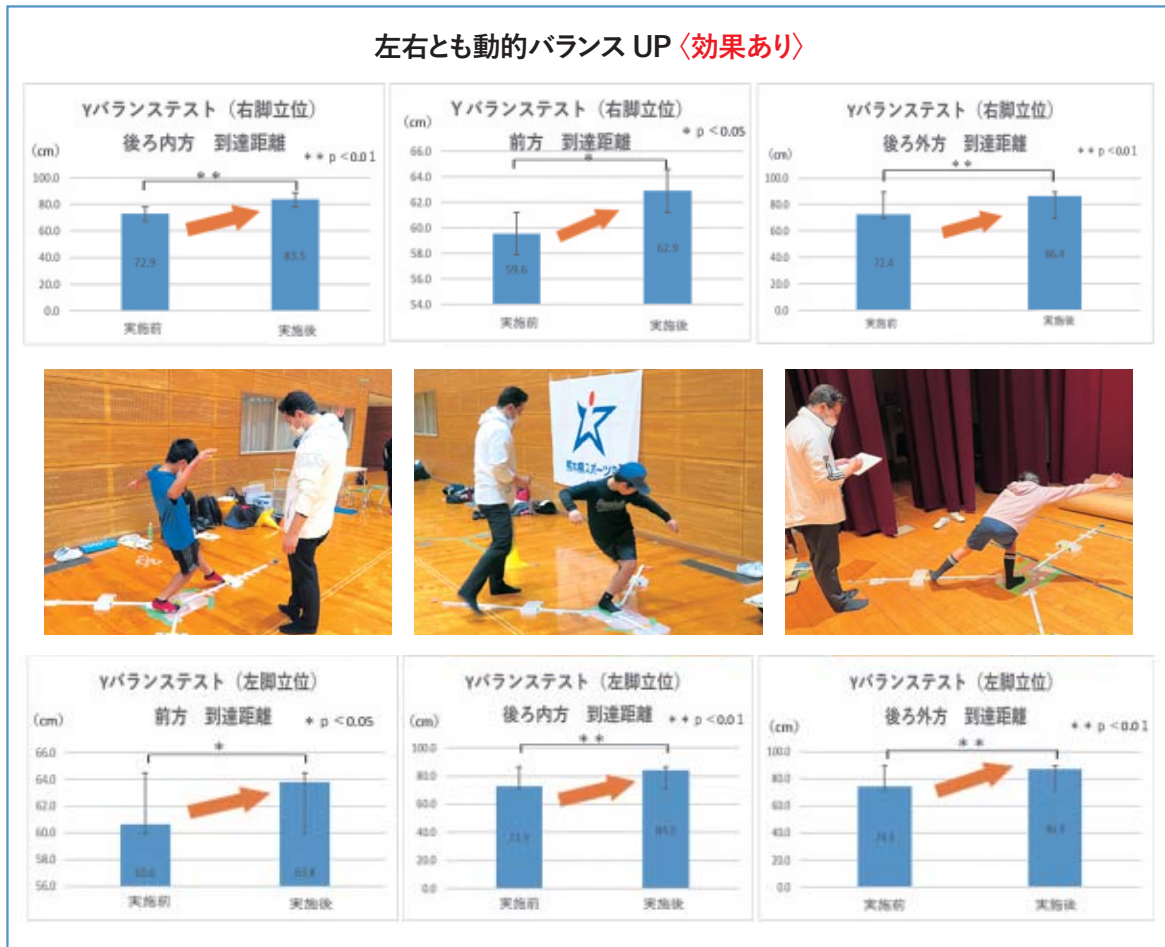


図 8 : Y バランステスト (右脚立脚・左脚立位)

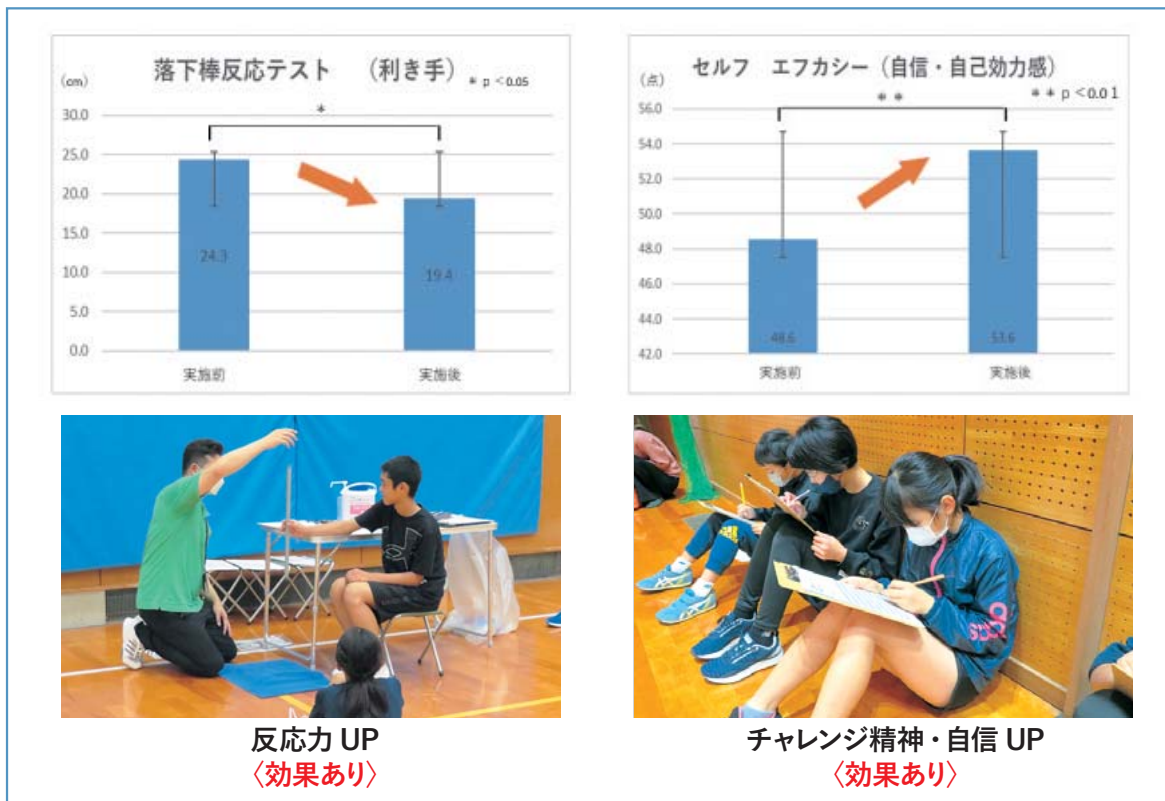


図 9 : 落下棒反応テスト・セルフ・エフカシー (自己効力感)

## セルフ・エフィカシーの測定方法

18個の質問項目について、「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」の4つから最も当てはまることを1つ選択し、その回答内容を分析した結果を反映している。

※本事業で活用した心理検査

発行所：こころネット株式会社

「GSESC-R」 General Self-Efficacy Scale for/Children-Revised

## セルフ・エフィカシーとは

セルフ・エフィカシーとは、ある行動をうまく行うことができるという「自信」のことをいい、日本語では自己効力感と呼ばれる。人がある行動へのセルフ・エフィカシーを強く感じていると、その行動を行う可能性が高くなり、その行動をするための努力を惜しまず、失敗や困難を伴っても諦めにくいと考えられる。

※厚生労働省ホームページ参照

## (6) 結果フィードバック

各総合型クラブの関係者・指導者・保護者に対して、上記の効果検証の結果についてフィードバックを実施。

	クラブ名	フィードバック実施日
①	【県北】 クラブなごみ	令和5年1月16日(月) 19:30～20:30 クラブなごみ運営委員会にて説明。
②	【県央】 長嶺地域スポーツクラブ	令和5年1月28日(土) 19:00～19:30 クラブスタッフ、指導者、保護者に向けて説明。
③	【県南】 NPO 法人上天草スポーツ クラブドリームズ	令和5年2月1日(水) 19:30～20:00 クラブスタッフ、指導者、保護者に向けて説明。

## フィードバックの様子



## (7) 考察

## ●神経系に関わる運動能力の発達段階

今回、定期的な運動遊びやスポーツ活動を経験することによって、神経系に関わる運動能力である「調節力」が向上した。調節力は、「コーディネーション能力」ともいわれ、身体を巧みにコントロールする力であり、平衡性（バランス）、巧緻性（器用さ）、敏しょう性（反応性）、予測性などの要素からなる能力である。この「調整力」が全体的に向上したのは、この時期（児童期）が関係していると考えられる。Scammon (1930) が提唱した発育曲線（図 10）と発育発達の関係<sup>1)</sup>からもわかるように、子どもの神経系は6歳までに急激に発達し、9～12歳までに発達段階のピーク（大人のレベル：成熟期）に達するといわれている。つまり、成人とは異なり全ての器官が発達段階であると考えられる。

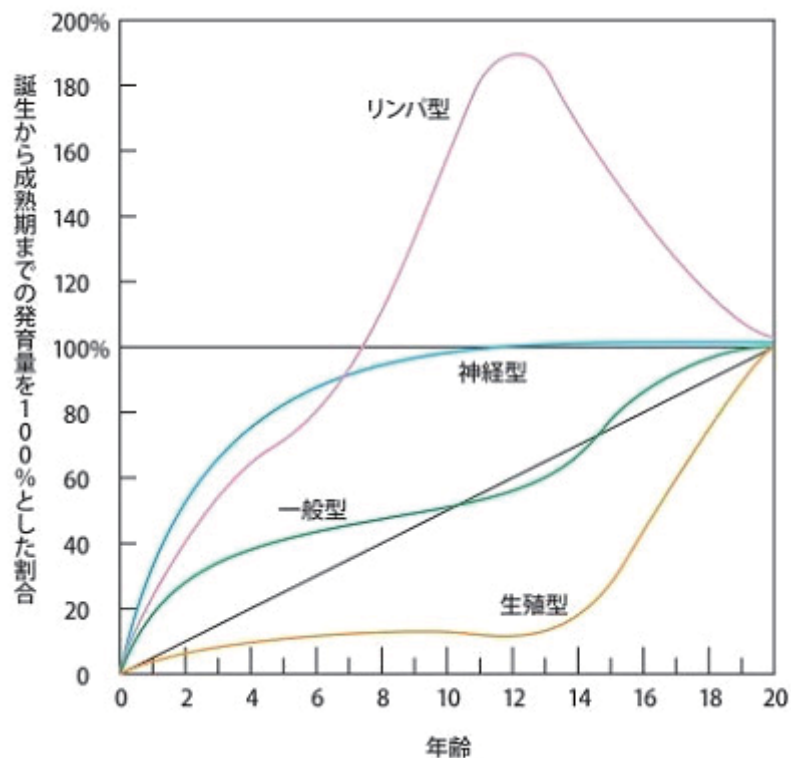


図 10：Scammon（スキャモン）の発育曲線  
 (図引用：国立スポーツ科学センターより一部修正)



### ●調整力・コーディネーション能力の運動学習に最適な時期

神経系の運動能力である調整力・コーディネーション能力は、神経系の発達と密接な関係があり、宮丸（2011）は、幼児・児童期が調整力を身につける敏感期であると述べている<sup>2)</sup>。つまり、調整力・コーディネーション能力の発達変化が著しい時期であると考えられる。

また Hartmann et al.（2013）は、運動学習の発達プロセスを3つに学習相に分節し、運動学習が『習得－改善－安定化』というプロセスをたどることを指摘している<sup>3)</sup>。今回の結果にみられた短期間での調整力が向上した結果は、動作が粗形式で動作コントロールも不十分だが、神経系の発達とも関連して素早い動作習得がみられる習得（第1学習相）の段階<sup>2)</sup>に達したと考えられる。したがって、今後も ACP のような運動遊びを継続的に実施していくことにより運動学習の発達プロセスに従い改善（第2学習相）－安定化（第3学習相）へと導かれ運動機能の定着が見込まれる。

### ●中・長期的に継続して導入・アプローチが必要な運動要素

今回、メディシンボール回旋投げテストでは明らかな効果は得られなかった。メディシンボール回旋投げに必要な能力は、普段の片手で投げるハンドボール投げやソフトボール投げとは異なり、体幹を回旋（ひねる）する動作中に瞬発的に力を発揮する能力や上半身と下半身の連動性によるパワーの出力、そして、ボールを離すタイミングなど神経系に関与する運動能力の他に、筋パワー、連動性、協調性など多くの複合的な要素が必要であったと考える。そのため、子どもたちにとって「力強さ」、「タイミングのよさ」を短期的に身につけることが困難だったと考える。

このような体幹をひねる力や上半身と下半身を連動させる能力は、子どもたち自身も日ごろの運動においてほとんど意識していない部分であったとも思われる。したがって、運動遊びを提供する指導者・保護者としても意識しづらい運動要素については、中・長期的なスパンで継続的に導入・アプローチしていくことが重要と思われる。

### ●自己効力感・チャレンジ精神の形成（心理的効果）

勝（2021）は、「運動やスポーツは、心身の両面に良い影響を与え、日々の生活に活力をもたらし、個々の心身の健全な発達に必要不可欠なものである」<sup>4)</sup>と述べている。また新本（2012）は「スポーツや運動を実施していることで、自己を肯定し、様々なことに対しても積極的に自信をもって行動をとることに繋がっている」<sup>5)</sup>と述べている。このように運動やスポーツを実施することによる心理的効果は非常に大きいものであると多くの先行研究から示唆されている。

今回は、運動やスポーツがもたらす心理的効果に関する先行研究として多く採用されている Bandura（1977）によって提唱された社会的学習理論の中核概念でもある自己効力感（self-efficacy：セルフ・エフィカシー）という心理的側面について測定を実施。その結果、子どもたちの自己効力感・チャレンジ精神・自信は高くなっていた。

今回は、子どもたちの細かな部分について個別の聞き取り調査が出来ていなかったため、自己効力感を高めた要因を分析するまでには至らなかった。しかし、測定場面や ACP 活動場面などを観察していると、参加している子どもたちが身体的にも精神的にも健康な状態であるということは把握できた。Bandura（1977）が自己効力感を高める4つの要因<sup>6)</sup>の内の一つである「生理的情緒的高揚」の状態であるといえる。つまり、総合型クラブの環境は、子どもたちの心理発達の形成に好ましい環境であると考えられる。

この自己効力感を高かい人は、自分の力を信じ、挑戦する力（チャレンジ精神）を持っているため、自分がとるべき行動に迷いがなく効率的に実行に移すことができるといわれている。今後も総合型クラブにおいて楽しみながら運動・スポーツの経験を重ねることは心理発達に肯定的な影響を及ぼすと思われる。

(8) 今後の課題

- ①今回、短期的（一時的）効果は検証できたが、いったん向上した心身機能を維持・発展させていけるのかなど中期的効用や長期的効用についても今後、検討していくことが重要である。
- ②今回のようなスポーツ測定を総合型クラブにおいて、定期的実施することが可能になれば、子どもたちの日々の成長や運動特性・能力（強い・弱み）などを指導者・保護者、子どもたち自身が把握でき、日々の運動活動プログラム内容のブラッシュアップに有用となりプログラムの質的充実につなげることができると思われる。

【参考・引用文献】

- 1) Scammon, R. E. (1930) . The measurement of the body in childhood, In Harris, J. A., Jackson., C. M., Paterson, D. G. and Scammon, R. E. (Eds). The Measurement of Man, Univ. of Minnesota Press, Minneapolis.
- 2) 加納裕久, 久我アレキサンデル, 玉腰和典, 丸山真司 (2016). 幼児期における定位能力・文化能力の発達の特性：投・跳動作に着目して, 発育発達研究第 70 号, 36-47
- 3) Hartmann,C.,Minow,H-J.and Senf,G. (2013) 金メダルの道しるべ初歩の動作学 - トレーニング学, 高橋日出二, 綿引勝美, 上田憲嗣 訳, レースマンメディア, 176-177, 202-206
- 4) 勝 健真 (2021). 運動・スポーツ経験が心理的側面に及ぼす影響, 大阪経済法科大学論文集第 116 号, 1-15
- 5) 新本惣一郎 (2012). 小学生のスポーツ実施状況の違いが特性自己効力感に及ぼす影響. 発育発達研究第 57 号, 1-9
- 6) Bandura ,A. (1977) .Self-efficacy: Toward a Unifying Theory of Behavioral Change. Psychological Review,84,191-215

【謝辞】 本事業にあたり多大なご理解とご協力をいただきました各総合クラブの関係者・保護者・児童の皆様に深くお礼申し上げます。



## 3 総括

### (1) 事業要約

今回、熊本県内3か所の総合型クラブにおいて、定期運動（定期クラブ活動＋ACP）を約2か月間（週2～3回程度）実施した。その結果、身体的効果に加えて心理的効果も認められた。

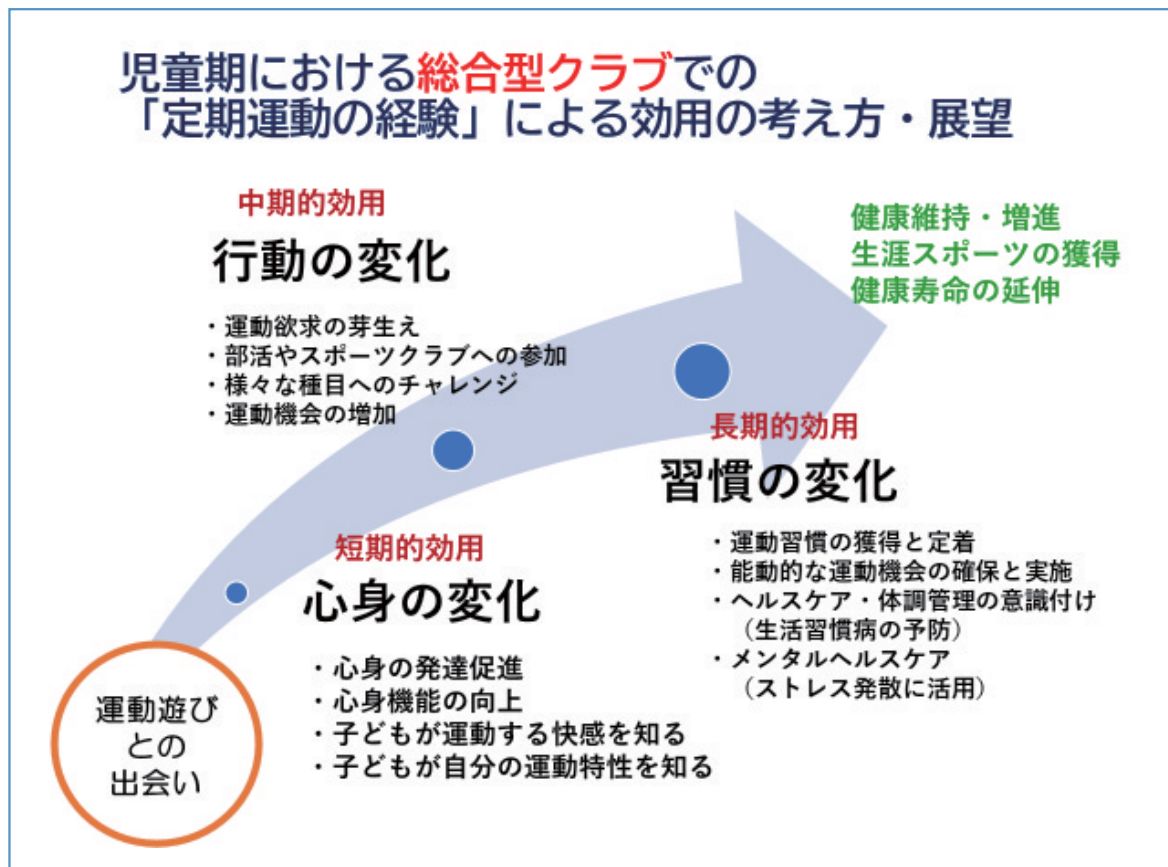
発達段階であるこの学童期は敏感な時期である。そのため、外界からの刺激を受け入れやすく（感度がよい）、変化しやすい（可塑性のある）時期であるため人生において貴重な時間である。子どもたちにとって運動学習効果が高い時期だからこそ、適切にプログラムされた運動遊び（ACP）やスポーツ活動を提供することが有意義であると考えます。

また我々（地域住民・保護者）が子どもたちに対して、しっかり運動ができる環境を作ってあげること、そして、体を動かす心地よさや初めての運動にチャレンジする高揚感などが得られる経験をさせる支援も引き続き進めていくことが重要であると考えます。

### (2) 今後の展望

近年、小学生が身体を思い切り動かすことができる環境や機会が狭小化している。このような環境で育っていく子どもたちは、運動経験が乏しいまま成長し、運動・スポーツに対して苦手意識を持ったまま大人になる場合もあり、大人になってからの運動習慣も獲得しづらいと思われる。

生涯にわたり運動・スポーツを楽しめる気持ちや身体の土台をつくり育てていくための環境として、幼児期・児童期における「運動遊びとの出会い」の場（総合型クラブ）の存在が貴重となる。未来を担う子どもたちの発育環境を保障していくためにも総合型クラブを中心にした地域住民・保護者・専門家たちの連携・協業による実践活動が求められていると感じる。



### ●実施クラブ情報

#### 【県北】クラブなごみ

〒 861-0913 玉名郡和水町板楠 76 番地（三加和公民館内）

TEL 0968-34-3047 FAX 0968-34-2033

MAIL syakai@town.nagomi.lg.jp

会長 荒木 拓馬 クラブマネージャー 木部 礼一、田上 康太 事務局 甲斐 彩音

会員数 116 人（未就学児 2 人、小学生 71 人、中学生 2 人、一般 8 人、60 歳以上 33 人）

#### 【県央】長嶺地域スポーツクラブ

〒 861-8039 熊本市東区長嶺南 7 丁目 21-40（長嶺中学校体育館内）

TEL 096-360-4044 FAX 096-360-4044

MAIL nagamine.sports.club@abeam.ocn.ne.jp

会長 山口 清 事務局 城下 耕治

会員数 253 人（小学生 91 人、中学生 20 人、高校生 6 人、一般 79 人、60 歳以上 57 人）

#### 【県南】NPO 法人上天草スポーツクラブドリームズ

〒 869-3603 上天草市大矢野町中 2289（上天草市大矢野総合体育館内）

TEL 0964-56-4701 FAX 0964-56-4702

MAIL kamiamakusa-dreams@voice.ocn.ne.jp

会員数 376 人（小学生 122 人、中学生 24 人、高校生 2 人、一般 143 人、60 歳以上 85 人）

※会員数：令和 4 年 3 月末現在

### ●協力者いただいたクラブ関係者の声

- ・ これまで、クラブの活動を数値化することがなかったが、今回、熊本保健科学大学の益満准教授らの協力を得て、見える化できたことは非常に有意義だった。
- ・ 会員の児童やその保護者はもちろん、クラブスタッフのモチベーションアップにもつながる非常にありがたいデータだと思う。継続して測定をしていきたい。
- ・ 具体的な数値があると、会員や地域住民にクラブの活動をより知っていただくいい情報となるため、是非クラブの広報に活用していきたい。 等

### ●担当者所見

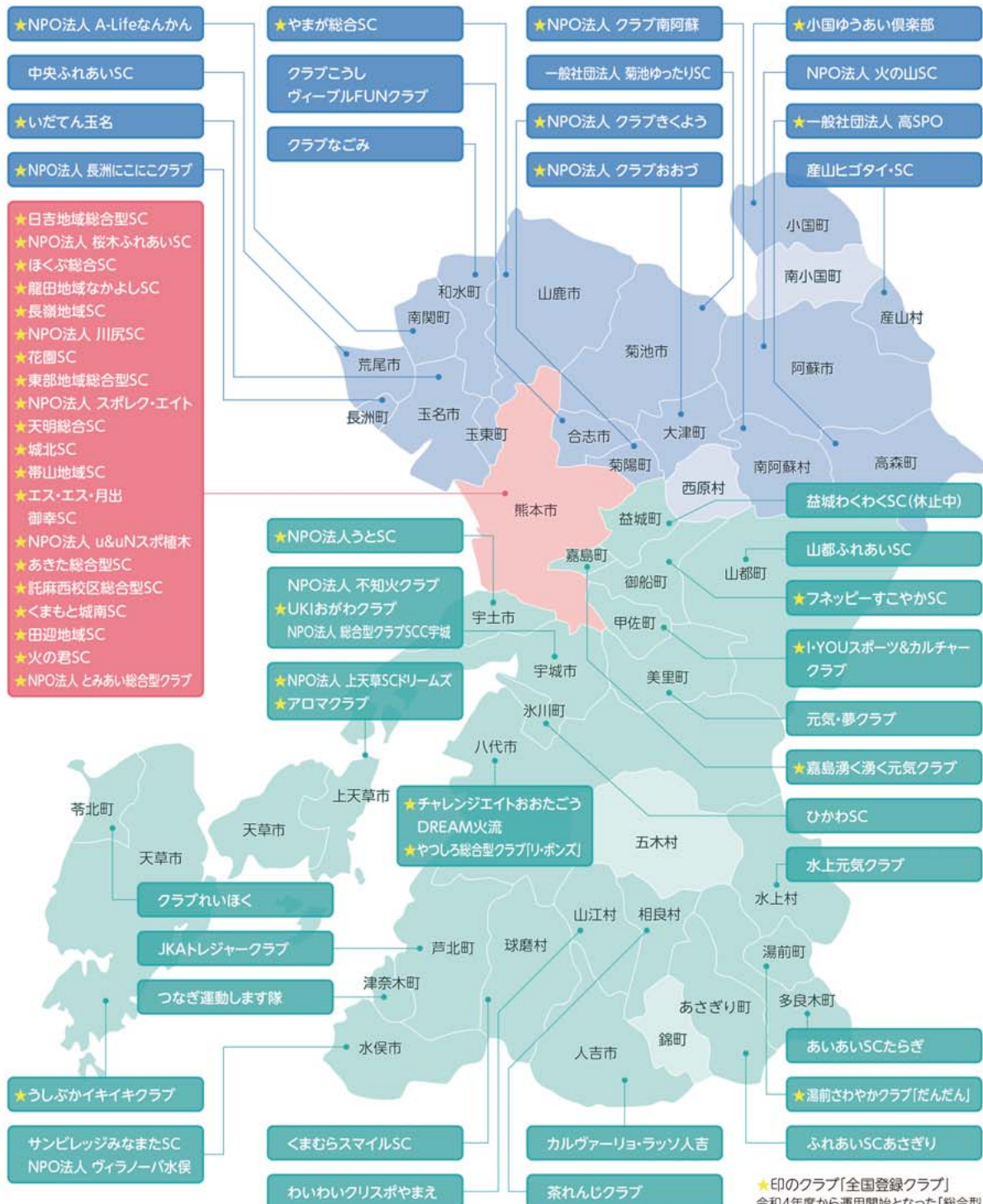
「総合型クラブの質的充実」に向けて、個々のクラブの質を高めるということはどういうことなのかを検討する中で、現在クラブに加入している会員の現状を客観的に数値で知ること、今後のクラブが目指す姿や目標、モチベーションに繋がると感じた。

専門性が必要とされる測定について、大学と連携できたことは非常に効果的であり、地域住民への理解促進に効果的であると感じた。

今後も個々のクラブ支援に繋がる事業として、専門機関等他団体と連携しながら取り組んでいきたい。

# 総合型地域スポーツクラブ育成MAP

熊本県スポーツ協会は、総合型地域スポーツクラブの普及や経営サポートを行っています。  
お住まいの地域に総合型地域スポーツクラブはありますか？



《現在設立準備中の地域》  
熊本市西原地域、熊本市画図地域、西原村、阿蘇市



★印のクラブ[全国登録クラブ]  
令和4年度から運用開始となった「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」において全国登録の手続きを行ったクラブは「登録クラブ」として認定されています。

令和5年1月現在

## 熊本県が定める総合型クラブの基準

令和3年度第4回登録・認証制度の運用に係る準備会議（R4.2.7開催）にて決定。

基準項目(分類/個別基準)	必ず満たすべき運用ルール
<b>1. 活動実態に関する基準</b>	①多種目(複数種目)のスポーツ活動を実施している。 ・定期的なスポーツ活動(年間で12回以上実施)を2種目以上実施している。
	②多世代(複数世代)を対象としている。 ・A)未就学児、B)小学生、C)中学生、D)～18歳、E)～29歳、F)～39歳、G)～49歳、H)～59歳、I)～69歳、J)70歳～のうち2区分以上の会員がいる。 ※当面の間は、総合型クラブが会員として扱っているものを会員とみなす。
	③適切なスポーツ指導者を配置している。 <b>※今後の努力目標</b> ・クラブマネージャー又は事務局員の少なくとも1名は、日本スポーツ協会公認クラブマネージャー又はアシスタントマネージャー資格を有している。 ・定期的なスポーツ活動において、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者が少なくとも1名は配置されている。
	④安全管理体制を整備している。 ・緊急連絡体制を整備している。 ※不測の事態に備え、あらかじめ医療機関をはじめとした各種機関・団体等や総合型クラブ内関係者の緊急時に関する連絡体制を整えていることを指す。
<b>2. 運営形態に関する基準</b>	⑤地域住民が主体的に運営している。 ・規約等・事業計画・予算・事業報告・決算を議決する意思決定機関の議決権を有する者の過半数が総合型クラブの所在する市町村の住民である。または、当該市町村の住民と近隣の市町村の住民を合算すると過半数である。 ・非営利組織である。
<b>3. ガバナンスに関する基準</b>	⑥規約等が意思決定機関の議決により整備され、当該規約等に基づいて運営している。 ・規約等の改廃に必要な議決について当該規約等に定めている。
	⑦事業計画・予算、事業報告・決算が、意思決定機関で議決されている。 ・事業計画・予算、事業報告・決算を議決した意思決定機関の議事録(出席者が明記されているもの)が提出されている。

(以上、全国統一基準)

⑧市町村がクラブに対して、上記の基準項目を全て満たしている、または、現在満たしていなくても、基準を満たすことを目指して努力していると承認できる。(本県独自基準)

さらに、全国協議会に登録申請するクラブは、

⑨熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(SCS火の国クラブネット)に加入している。(本県独自基準)

注1) ①～⑦の基準項目は全国協議会が定めた(必ず満たすべき運用ルール)として設定されたもの。

注2) ⑧～⑨の基準項目は本県独自基準として設定したもの。

**「令和4年度総合型地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業（地域のスポーツ環境基盤強化）  
総合型クラブの質的充実に向けた活動基盤強化事業」協力者一覧**

**【熊本保健科学大学 健康・スポーツ教育研究センター】**

松原 誠仁 副センター長・准教授 理学療法士  
益満 美寿 准教授 作業療法士  
枝尾 久美 講師 理学療法士  
鎗木 誠 講師 理学療法士  
久保下 亮 講師 理学療法士  
本田 啓太 講師 理学療法士  
荒木 理恵 講師 理学療法士  
中村 祐貴 事務職員

**【アクティブ・チャイルド・プログラム指導者】**

中尾 雄一 ACP 講師講習会修了者  
立山 明佐子 ACP 講師講習会修了者  
村上 久栄 ACP 講師講習会修了者  
遠山 まつ子 ACP 普及促進講習会修了者（補助）

**【総合型地域スポーツクラブ関係者】**

〈県北〉クラブなごみ

原賀 和代、池上 直美、木部 礼一、池上 順子、田上 康太

〈県央〉長嶺地域スポーツクラブ

山口 清、益永 一幸、平田 正一、島田 征一郎、城下 耕治

〈県南〉NPO 法人上天草スポーツクラブドリームズ

山口 浩之、赤松 守、下山 優子、山下 るり子、小幡 晃大、下村 さやか

その他 会員、保護者の皆様

**「令和4年度総合型地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業（地域のスポーツ環境基盤強化）  
総合型クラブの質的充実に向けた活動基盤強化事業報告書」作成担当者**

熊本保健科学大学 健康・スポーツ教育研究センター 准教授 益満 美寿  
公益財団法人熊本県スポーツ協会 クラブアドバイザー 太田黒 尚子

**【発行】**

公益財団法人熊本県スポーツ協会

〒861-8012 熊本県熊本市東区平山町 2776 県民総合運動公園陸上競技場

TEL 096-388-1581 Fax 096-388-1584 mail main@kumamoto-sports.or.jp

ホームページ <http://kumamoto-sports.or.jp/>

